



成田空港の 2025 年夏の記録的な高温

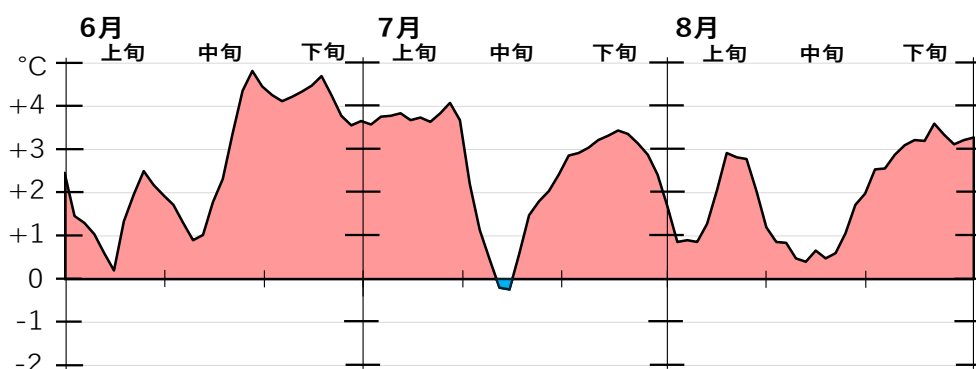
2025 年夏（6 月～8 月）の気温の特徴

1. 概況

日本付近では偏西風が平年より北に偏って流れやすく、全国的に暖かい空気に覆われました。また、梅雨前線の活動が弱く、北・東・西日本は太平洋高気圧に覆われて晴れて気温の高い日が多かったため、夏の平均気温はかなり高くなりました。夏の平均気温平年差は、北日本で $+3.4^{\circ}\text{C}$ 、東日本で $+2.3^{\circ}\text{C}$ 、西日本で $+1.7^{\circ}\text{C}$ となり、1946 年の統計開始以降、夏として 1 位の高温となりました。全国 153 の気象台等のうち 132 地点で、夏の平均気温が歴代 1 位の高温となりました（9 地点のタイ記録を含む）。

地球温暖化等の長期的な気候変動の監視に用いる 15 地点の観測値による日本の夏の平均気温（＊）の基準値からの偏差は $+2.36^{\circ}\text{C}$ で、これまで最も高かった 2023 年、2024 年の $+1.76^{\circ}\text{C}$ を 0.60°C 上回り、統計を開始した 1898 年以降の夏として 1 位の高温となり、3 年連続の記録的な高温の夏となりました。

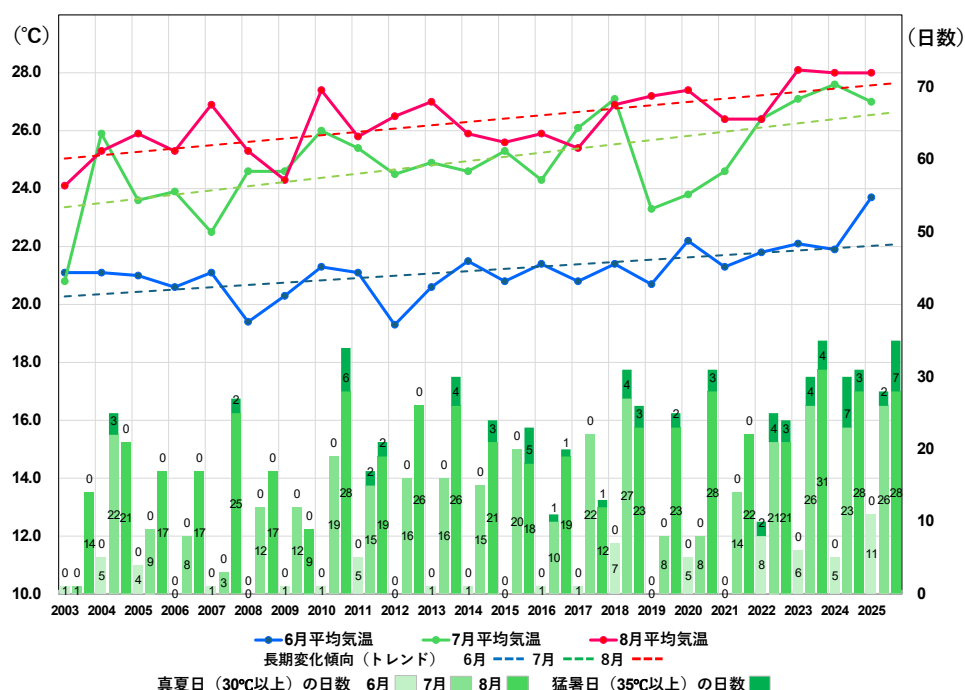
第 1 図は、成田空港における月平均気温の基準値（2003 年から 2020 年平均値）からの偏差 5 日移動平均を示しています。7 月中旬の負偏差がある以外は期間を通じて正偏差で経過しており高温であったことが分かります。



第 1 図 成田空港における 2025 年夏（6～8 月）の平均気温平年差の経過（5 日移動平均）

2. 成田空港における夏の各月平均気温の長期変化傾向と真夏日・猛暑日の日数（2003～2025 年）

第2図は、2003～2025年の成田空港における夏（6月～8月）の月毎の平均気温の長期変化傾向と真夏日（最高気温 30℃以上）及び猛暑日（最高気温 35℃以上）の日数をまとめたグラフを示します。6月～8月の各月の月平均気温の長期変化傾向は、上昇傾向を示しており、2025年夏の猛暑日は9日、真夏日は65日となり長期的には増加していることが分かります。



第2図 成田空港における夏の各月平均気温の長期変化傾向と真夏日・猛暑日の日数(2003～2025 年)

棒グラフの数字は、真夏日、猛暑日それぞれの日数を示す。

<6月の気温>

偏西風が日本付近で平年より北を流れ、暖かい空気に覆われやすかったことや暖かい空気が流れ込みやすかったことなどから、月平均気温は北・東・西日本でかなり高く、月平均気温平年差がそれぞれ+3.2℃、+2.3℃、+1.8℃となり、1946年の統計開始以降、6月として1位の高温となりました。全国153の气象台等のうち122地点で、月平均気温が6月として歴代1位の高温となりました（6地点のタイ記録を含む）。

地球温暖化等の長期的な気候変動の監視に用いる15地点の観測値による日本の月平均気温（＊）の基準値からの偏差は+2.34℃で、これまでに最も高かった2020年の+1.43℃を0.91℃上回り、統計を開始した1898年以降の6月として1位の高温となりました。

成田空港でも、月平均気温は6月として歴代1位となる23.7℃を記録し、真夏日も6

月として最も多い 11 日となりました。

＜7 月の気温＞

偏西風が平年より顕著に北に偏って流れ続け、北・東・西日本は暖かい空気に覆われました。また、太平洋高気圧が本州付近に張り出し、梅雨前線の活動が弱かったため、北・東・西日本では晴れて気温が高い日が多くなりました。これらのことから、北・東・西日本では記録的な高温となりました。月平均気温は北・東・西日本でかなり高く、月平均気温平年差がそれぞれ+4.5℃、+2.7℃、+2.2℃となり、1946 年の統計開始以降、7 月として 1 位の高温となりました。また、全国 153 の気象台等のうち 98 地点で、月平均気温が 7 月として歴代 1 位の高温となりました（10 地点のタイ記録を含む）。

地球温暖化等の長期的な気候変動の監視に用いる 15 地点の観測値による日本の月平均気温（＊）の基準値からの偏差は+2.89℃で、統計を開始した 1898 年以降の 7 月として、2024 年の記録(+2.16℃)を 0.73℃上回り、最も高くなりました。

成田空港の月平均気温は、2024 年に 27.6℃、2023 年及び 2018 年に同値の 27.1℃に続き、4 位となる 27.0℃となりました。また、猛暑日は 2 日、真夏日は 26 日となりました。

＜8 月の気温＞

日本付近では偏西風が平年より北に偏って流れやすかったため、全国的に暖かい空気に覆われ、低気圧や前線に向かって暖かい空気が流れ込んだ時期もあった北・東・西日本でかなり高くなりました。このため、月平均気温は北・東・西日本でかなり高くなりました。5 日は関東甲信地方の各地で日最高気温が 40℃を上回るなど、気象官署等とアメダスを含め、全国での過去最高を更新しました。

地球温暖化等の長期的な気候変動の監視に用いる 15 地点の観測値による日本の月平均気温（＊）の基準値からの偏差は+1.84℃となり、これまで最も高かった 2023 年に次いで、統計を開始した 1898 年以降の 8 月として、2024 年の記録と並び、2 位タイの高温となりました。

成田空港の月平均気温は、2023 年の 28.1℃に次ぐ 2 位の 28.0℃となりました。また、猛暑日は 7 日で最多となり、真夏日は 2023 年の 31 日に次ぐ 2 位タイの 28 日となりました。

（＊）都市化による影響が比較的小さく、長期間の観測が行われている地点から、地域的に偏りなく分布するように選定した 15 地点（網走、根室、寿都、山形、石巻、伏木、飯田、銚子、境、浜田、彦根、宮崎、多度津、名瀬、石垣島）の気象台等の観測値を用いた統計。



防災メモ

○停滞前線近傍の大雨に留意

時期により梅雨前線や秋雨前線と呼ばれることもある停滞前線近傍では、前線にむかって暖かく湿った空気が流れ込むことで雨雲が発達し、短時間で大雨となることがあります。特に前線上に低気圧や波動（小さな低気圧のようなもの）があると、風が集まりやすくなり、上昇気流が助長され雨雲が発達します。上空に強い寒気が入り大気の状態が非常に不安定となり雨雲が発達する場合があります。場合によっては、前線の南側を中心に線状降水帯が発生するおそれもあります。2024 年 9 月 3 日の事例（空のしおり No. 48Topics 参照）のように、日本の南に張り出した高気圧の縁辺となる時や、日本の南に熱帯低気圧や台風がある時など、南からの暖湿気の流入が強まりやすくなります。前線が停滞し長雨となることによる大雨を含めて、停滞前線近傍が予想される時は、より気象情報に留意して下さい。

「台風や集中豪雨から身を守るために」気象庁 HP URL :

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/ame_chuui/ame_chuui_p1.html

発行 成田航空地方気象台
〒282-0004
千葉県成田市古込字込前 133